

たるものなるか、并は専門家の研究に一任せん。

第五章 宗教

第一節 總説

宗教は人性の自然に基きて起るものなり。人類の限ある身を以て、無限の宇宙に立ち、疑惑あり不安なきを得ず。苟も疑惑不安の念ある、必ず心外に全智全能の神を理想し崇拜し、之れに依りて、人生の歸趣を尋ね、安心立命を求む。是れ人の性情の自然に出る精神現象にあらずや。歴史を緋けば、古より文明人たると、野蠻人たるとを問はず、多少宗教を信奉せざる無き、豈に其れ故なしとせんや。

然り而して人の信仰の、傳染するものなると共に、宗教心は亦遺傳のものにして、人より人に系統的徑路を経て傳ふるを免れず。故に其の祖先に因り、人種に因り、人の智職の程度如何に因りて、其の崇拜する信奉する、宗教の同一ならざるは、自然の勢なり。